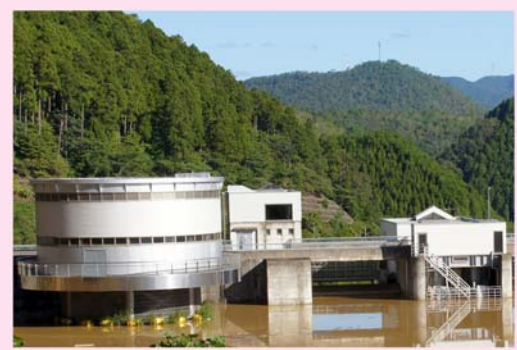


■緊急放流時（9月16日14時50分頃）  
の世木ダムの様子



日吉ダムの貯水位が最も高くなった時には日吉ダムの貯水池内（日吉ダムより4.8km上流）にある世木ダムも、ほぼ水没しました。

■出水翌朝（9月17日）の日吉ダムの様子



洪水時最高水位を超えて水を貯めた結果、非常用洪水吐きゲートの上端ぎりぎりまで水位が上昇しました。選択取水設備（丸い建物）のスクリーンもほとんど水で隠れています。

■日吉ダム周辺の道路の様子

貯水池周辺では法面の崩落のため通行ができなくなった道路がたくさんあります。その他にも、軽度の土砂崩れが多発しています。



■貯水池に流れこんだ流木



▲世木ダム下流地点の様子（9月17日） ▲小倉谷の管理用道路路面上の様子（9月17日）

貯水池内には、上流からたくさんの流木が流れこみました。これは、平成16年の台風23号の時に比べるとはるかに多い量と推定されます。貯水池周辺の管理用道路路面上にもたくさんの流木が押し寄せ、通行ができない状態です。日吉ダムで大量の流木を貯めたことにより、流木の下流への流出を防ぎ、河川構造物や橋梁の損傷を軽減したものと考えられます。

南丹さんぽ  
号外

# 日吉ダム管理開始以来 最大のダム流入量を記録

—平成25年9月、台風18号の記録—



この度の台風18号で被害に遭われた皆様に  
心よりお見舞い申し上げます。

▲平成25年9月16日午後1時45分頃の日吉ダムの様子（近畿地方整備局提供）

■貯水位の変化



▲平成25年9月15日16時20分頃の様子  
貯水位：標高178.17m  
（6月16日～10月15日の通常の貯水位）



▲平成25年9月16日14時40分頃の様子  
貯水位：標高201.87m  
（貯水位が最も高くなった時）

日吉ダムでは総貯水容量の3分の2を貯め込み、台風前と比べて貯水位は23.7m上昇しました。

みずしげんきこう  
独立行政法人 水資源機構 日吉ダム管理所  
京都府南丹市日吉町中神子ヶ谷68  
TEL. 0771-72-0171 FAX. 0771-72-0460  
URL <http://www.water.go.jp/kansai/hiyoshi/>  
E-mail [hiyoshi-dam@cans.zaq.ne.jp](mailto:hiyoshi-dam@cans.zaq.ne.jp)



# 台風18号の概要と洪水調節

9月13日に小笠原近海で発生した台風18号は、日本の南海上を北上し、大型の勢力を保ったまま16日8時前に愛知県豊橋市付近に上陸した後、本州中部を北東に進みました。

この台風を取り巻く雨雲や湿った空気が次々と流れ込んだため、京都府では記録的な大雨となりました。このため16日5時05分に京都府に、気象庁の特別警報運用後初めてとなる大雨特別警報が発表されました。

日吉ダム流域でも、9月15日2時から16日17時までに総雨量345mmを記録しました。これは、各地で大きな被害をもたらした平成16年の台風23号の238mmを大きく上回るものでした。

この降雨により、日吉ダムへの最大流入量は平成10年4月の管理開始以来最大となる毎秒1,694m<sup>3</sup>となりました。

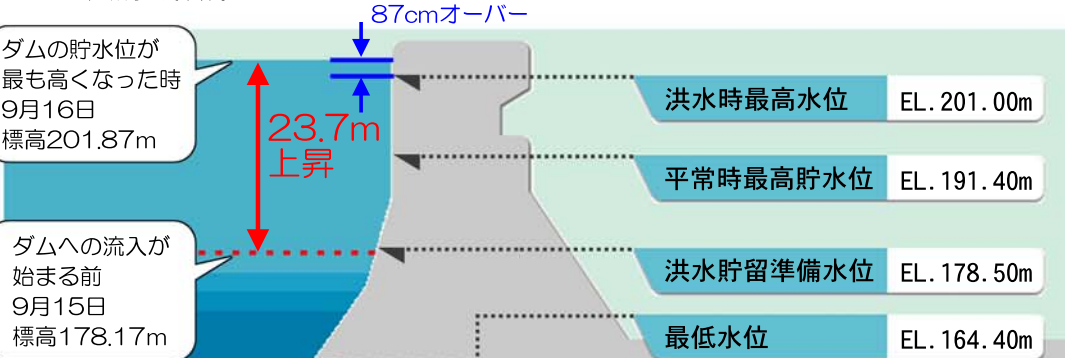
管理開始(平成10年4月)以降の主な出水の記録

順位	出水名	総雨量 [mm]	最大流入量 [m <sup>3</sup> /s]	ダム流下量 (最大) [m <sup>3</sup> /s]	最大流入時の貯留量 [m <sup>3</sup> /s]
1	平成25年 9月 台風18号	345	1,694	504	1,546
2	平成16年10月 台風23号	238	856	150	708
3	平成22年 7月 梅雨前線	170	698	150	549

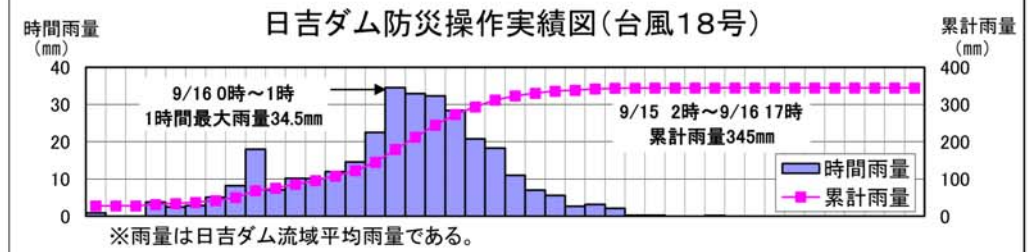
この出水に対して、日吉ダムでは防災操作<sup>(※1)</sup>を実施しました。16日10時32分には、緊急放流操作を開始する水位(200.2m)に達しましたが、国土交通省淀川ダム統合管理事務所長との調整の結果、ダム下流の状況を考慮して、操作の開始を遅らせました。

16日11時25分には、洪水時最高水位(201.0m)を超え、これ以上操作を遅らせるとダムの安全性に支障が出ると考えられたため、12時00分に緊急放流操作を開始し、ダムへの流入量と放流量を同量に近づける操作を行いました。今回は、洪水時にダムに貯留することができる洪水調節容量以上の洪水を貯留し、京セラドーム37杯分(4,455万m<sup>3</sup>)に相当する水をダムに貯め込みました。

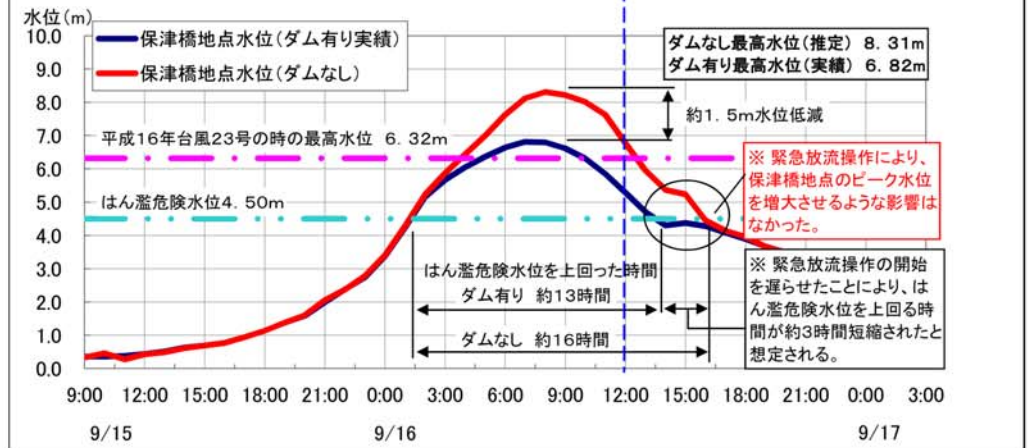
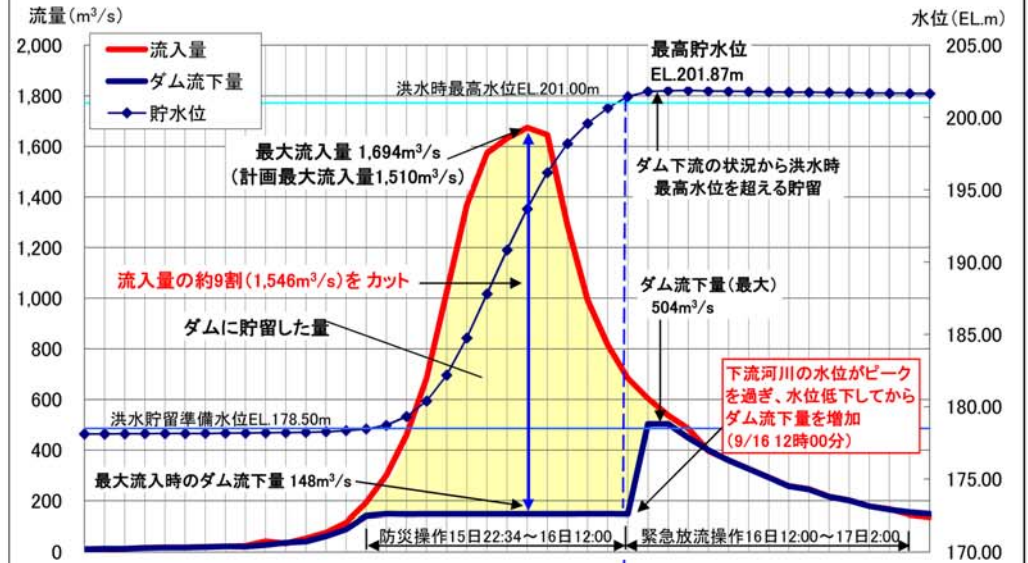
※1：ダムに流れ込む水の量より少ない量を放流することで、下流の流量を減らし、洪水による被害を軽減する操作。



- 洪水時最高水位：大雨が降ったとき、一時的にこの水位まで水を貯めることができます。
- 平常時最高貯水位：10月16日から翌年6月15日までは、この水位まで水を貯めて管理しています。
- 洪水貯留準備水位：6月16日から10月15日までは、台風や大雨が発生しやすいので、ダムに貯める水の上限をこの水位までとして管理しています。
- 最低水位：貯水池の運用上の最低水位です。これより下は、流れ込んできた土砂を貯める容量です。



※雨量は日吉ダム流域平均雨量である。



今回の防災操作により、ダム下流の保津橋地点(亀岡市保津町下中島地先)では、約1.5mの水位低減効果があったものと推定されます。緊急放流により保津橋地点のピーク水位上昇を招くような影響もありませんでした。

ダムがなかった場合には、ダム下流域での浸水被害が更に拡大していたものと想定されます。※今回の発表は速報値であり、今後の調査により数値等が変わることがあります。

日吉ダムでは、今後もダムの効果が最大限に発現できるよう努めて参ります。